

## 検定英語（初級）における授業外学習の結果分析

石田 美佐江

岡山理科大学教育推進機構基盤教育センター

### 1. はじめに

検定英語（初級）は、基盤教育科目（外国語系科目）の選択必修科目の一つで、1年次の春・秋学期に開講されている科目である。英語検定試験の一つである TOEIC®L&R テストの 400 点を目標に講義の中で演習を行い、「確かな知識」を習得し社会での活動につながる英語力を育てることを目的としている。

本稿は、2023 年度春学期に筆者が担当する 2 クラスについてオンラインシステムを利用した授業外学習の分析結果を報告するものである。この分析結果によって受講生の弱点を把握し適切なアドバイスを受講生に与えることができ、今後の授業内容の具体的な改善につながると考えている。

### 2. オンラインシステムを利用した授業外学習について

#### 2-1 実施方法

本授業では、教科書 *SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC®L&R TEST: BEGINNER*(金星堂)<sup>1)</sup> を使用している。この教科書はトピック別に 15 の Unit で構成されているが、そのうち表 1 で示す 12 の Unit を授業で取り上げている。授業では、Unit 前半の基本的な語句、文法、リスニング、リーディングの問題について重要なポイントを解説し、問題演習・音読練習・ペアによる口頭練習などを行っている。

表 1 教科書の各 Unit のトピック

Unit	トピック	Unit	トピック
1	Travel (旅行)	7	Daily Life (日常生活)
2	Dining Out (レストランや食事・料理)	8	Media (メディア)
3	Shopping (買い物)	9	Recruiting (求人・採用)
4	Entertainment (エンターテインメント)	10	Production & Sales (売上・業績)
5	Advertising (広告・宣伝)	11	Meetings (会議)
6	Events (イベント [セミナー・講習会])	12	Offices (オフィス)

授業外では、Unit 後半にある Unit の復習問題（発展問題）のような TOEIC Mini Test (Unit あたり 18~20 問のテスト。TOEIC の PART1~7 の問題形式をすべて出題しているわ

けではない)を受講生に受験させた。この教科書の使用者が利用できる CheckLink (チェックリンク)と呼ばれる金星堂のオンラインシステムにより、PC・スマートフォンなどからインターネットを通して解答がなされた。この結果は、受講生にはオンライン上で正解が示され、教員には受講生ごとの解答状況、クラス内正解率、全国正解率などが提供され、クラスごとや受講生ごとの学習履歴を管理することができる。本稿は、このデータを分析したものである。

2-2 データの分析結果

受講生は、Unit1 から 12 の TOEIC Mini Test の 220 問に取り組み、全体の正解率は 78%であった。全国平均正解率(2023年10月10日時点)を5%以上超えた問題は150問(68%)あり、5%以上低かったのは12問(5%)に過ぎず、そのうち10%以上低かったのは3問(1%)だけであった。受験時間・場所などを考慮せずに全国平均正解率と単純に比較すると、全体としては良好な成果を収めていると考えられる。

図1は、Unitごとの正解率を示している。さらに、図2は正解率が低い3つのUnit6、

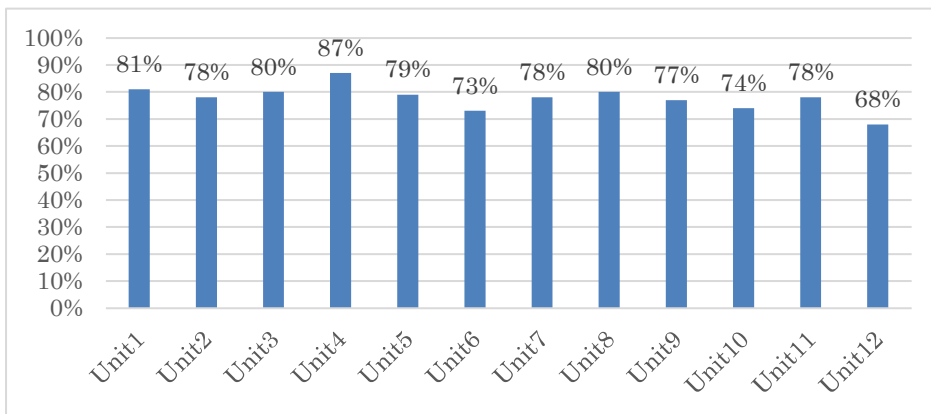


図1 各 Unit の正解率

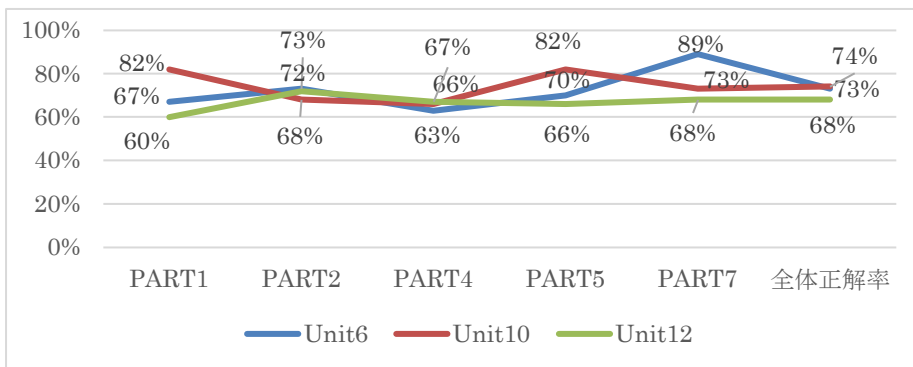


図2 Unit6,10,12の各 PART の正解率

10、12で出題されているPART1(写真描写問題)、PART2(応答問題)、PART4(説明文問題)、PART5(短文穴埋め問題)、PART7(読解問題)の正解率を示したものである。

正解率が唯一 60%台 (68%) である Unit12 は、PART2 を除けばどの PART も 60%台で、正解率の低さは問題形式によるものではないと考えられる。Unit12 の低い正解率については、Unit のトピックが「オフィス」で学生には馴染みがないことが原因の一つではないかと考えられる。続いて低い正解率の Unit6 と 10 もトピックは「イベント [セミナー・講習会]」と「売上・業績」で、やはり学生に馴染みのあるものとは言い難い。第 1 回目授業で出席者 50 名に実施したアンケート調査で検定試験の受験経験の有無を尋ねたところ、「ある」と 29 人 (58%) が回答したが、図 3 が示すようにそのうち TOEIC の受験経験者は 3 名しかおらず、大半は実用英語技能検定 (英検) の受験であった。このことから、授業で基本的な問題を理解したとは言え、TOEIC で出題される社会人が経験するような状況に関連する問題に受講生は不慣れで戸惑ったと考えられる。

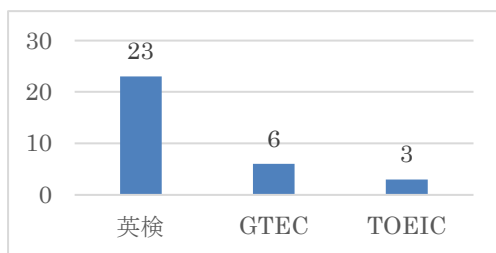


図 3 英語検定試験と受験経験者の人数

次に、全国平均正解率より 10%以上低かった 3 問を例として取りあげて不正解の原因を分析する。まず、最も差が大きかったのは Unit8 の PART5 (短文穴埋め問題) 11 番で、全国平均正解率も 55%と高くはなく難しい問題であったが、受講生の正解率はそれより低い 42%であった。回答率は(A)42%、(B)44%、(C)7%、(D)7%で、正解(A)より不正解(B)の回答者が多かった。(B)の回答者が多かった原因については、“traffic updates”は授業で「

11. The radio program has \_\_\_ own traffic updates.

(A) its (B) it (C) we (D) us (教科書 p.62)

交通の最新情報」であると学習済みなので、“own”の品詞と意味がわからなかったのではないかと考えられる。“own”が所有格代名詞の後で「独自の」の意味で使われることを知らなかった、もしくは気がつかなかったのだろう。あるいは、動詞の「～を所有する」と考えて主格 “it”を選択した受講生や“has”の目的語と考えて目的格“it”を選択した受講生もいるのかもしれない。このことから、“own”のような単語の品詞による使い方の違いに注意をさせる必要がある。既述のアンケート調査で、他に英語の好嫌をたずね、その理由を自由記述させたが、「嫌い」と回答した 9 人中半数を超える 5 人が単語を覚えるのが苦手と回答した。また、「どちらともいえない」と回答した 32 人の中にも単語が苦手と回答した受講生が 4 人いた。「初級」レベルの受講生は、まずは単語の品詞による意味の違いに注意しながら演習問題を繰り返し解くことで語彙数を増やしていく必要がある。

Unit4 の PART2 (応答問題) の 7 番は、前述の Unit8 の 11 番と同じく全国平均正解率が 55%で、受講生の正解率は 43%と低かった。回答率は、(A)38%、(B)43%、(C)19%であ

った。リスニングセクションの How many ～?で始まる「数」をたずねる疑問文の応答問

7. How many actors will receive awards this year?

- (A) Jack received it before.
- (B) It hasn't been decided yet.
- (C) No, next year.

(教科書 p.34)

題であるが、「数」をあげて応答している選択肢がなかったことが低い正解率の原因であると考えられる。不正解(A)の回答者が多かったのは、疑問文で使われている動詞 receive が(A)の応答文中に使われているため惑わされたのではないだろうか。TOEIC では疑問文にたいしていつも直接的な応答がされるとは限らないことを学ばせる必要がある。

最後の例は、Unit5 の PART1 (写真描写問題) の 1 番である。棚にたくさんの帽子が積

- 1. (A) There's some hats on the floor.
- (B) Some products are piled up.
- (C) Price tags are placed on items.
- (D) The shelves are empty.

(教科書 p.40)

み重ねられて販売されている写真を見て、適切に表現されている英文を聴いて選ぶ問題で、回答率は(A)44%、(B)24%、(C)27%、(D)4%であった。正解率が 220 問中最も低く、全国平均正解率より 10%低かった。正解(B)の正解率が不正解(A)や(C)より低かったのは、帽子が“products”と言い換えて表現されており、しかも句動詞の“pile up”を知らないことで聞きとれなかった可能性がある。(A)の回答率が最も高かったのは、“hats”に惑わされたのではないかと考えられる。(C)の回答率が高かったのも写真に「値札」が写っており(写真では値札は商品ではなく棚に貼られている)、“Price tags”に惑わされたのであろう。Unit4 の PART2 の 7 番や Unit5 の PART1 の 1 番は TOEIC の典型的なひっかけ問題で、スコアアップのためにはひっかけポイントの知識を得て演習を繰り返すことでこのような問題に慣れる必要がある。

### 3. 終わりに

今回の結果が本大学の受講生に特有の結果であるかどうかは秋学期以降のクラスの学習結果を引き続き分析していく必要があるが、受講生が誤答しやすい事項が明らかになった。このことにより検定英語(初級)の受講生に注意すべき具体的な要点をフィードバックできるものと考えている。

本稿の作成にあたり、株式会社金星堂より教科書と CheckLink のデータ引用の許諾を頂きました。厚く御礼申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 早川幸治・岸洋一：SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC®L&R TEST BEGINNER, 金星堂(2020)